

アグリ | ワーク | ポイント



秋整枝後の寒害

秋整枝後、摘採面に見える越冬芽や成葉は休むことなく活動が続けられ、貯蔵養分が樹体に蓄積されます。その後、蓄積された樹体内養分で茶樹の細胞内の水分や糖類などの成分量が変化し、耐寒性が高まっていきます。この耐寒性を上回る低温や寒風によって寒害が引き起こされ、外見上の違いから「赤枯れ」、「青枯れ」、「幹割れ」、「胴枯れ」などに分類されます。これらが複合して見られることもありますので、表を参考にし、早めに防寒対策をしましょう。

〈寒害の分類と特徴〉

分類	症状	発生時期
赤枯れ	莖葉や芽に赤褐色斑が生じ、顕著な場合は枯死する	12～2月
青枯れ	水分不足のため葉が笹色になる	12～2月
幹割れ	幹の地際部の形成層が凍結し、樹皮がはがれる	11～12、3月
胴枯れ	厳冬期の低温で幹や枝が枯死する	厳冬期
落葉	葉柄または葉身基部から落葉する	冬期

寒害対策

寒害を受けやすい茶園は、標高が高く冬の季節風を強く受ける園地や、冷たい空気が停滞する窪地、低地などです。

寒害の防止対策として、敷き草や防風垣の設置を行います。幼木などでは竹枝や雑木枝、ワラなどで茶株面を被覆するのも有効です。

○敷き草…土壌の乾燥を防ぎ、地温を保つ

○防風垣…強風をやわらげ落葉を防ぎ、蒸発散を抑制
秋から冬の時期に翌春萌芽する芽が充実していきませんが、成葉の落葉量が多くなると生長中の芽に影響が出てきます。秋の肥培管理を充分に行って落葉を防ぎ、翌年の一番茶の収量につなげましょう。

病害虫防除

カンザワハダニ（通称…赤ダニ）

10～11月にはカンザワハダニの発生が予想されます。新芽につくと水色が赤くなり、苦味の強い茶になるなど品質が低下します。成葉や古葉も加害されて収量が減ってしまうため、発生初期に防除を行ってください。